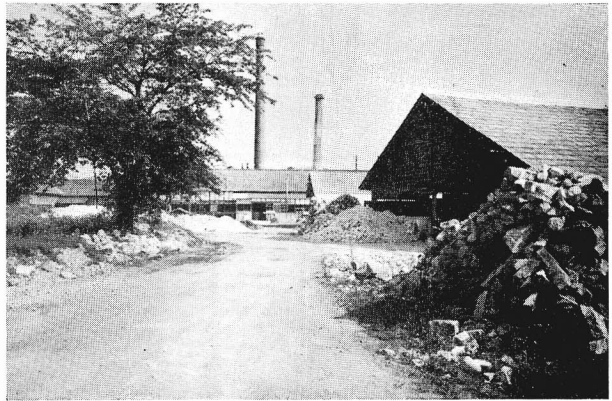




上米塚のガイシ工場の内部



上米塚の瀬戸物（ガイシ）工場

反などといわれている。

田植などは古くから一人一日一反、田の草とりも大体一反、稲刈になると五畝歩が、一人前のわっぱか、これは割りほかの意である。ほかが一人の労働量のようにいわれ、田植や稲刈りなどで、幾株かを自分で受持つのを、割りほかなどともいっている。仕事に能率をあげている人のことを「ほかがいく」などともいならしている。

であるが、昔は米搗きという、男の一人前の仕事振りを評価するのに、よく用いられていたのがある。一人二斗ばかりとか、三斗ばかり、これを一白とか、一俵などともいっていたようである。

これは労働とはいいい得ないが、昔は村中にばんもち石などという、若者の力だめしをする大石が二、三横たえられていた。（東麻生の項に写真あり）これは、米俵を何歳頃一人前としてかつげるようになるかと同じように